

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 28 年度
ゲノム病理標準化センター
第 8 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 東京大学医学部附属病院

平成 29（2017）年 3 月

第8回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

「ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成」を目的とした「第8回ゲノム病理標準化センター講習会」を2017年2月11日（土）、12日（日）に東京大学医学部附属病院にて開催した。

<2月11日（座学）>

主催者である東京大学医学部附属病院および日本病理学会を代表して東京大学医学部人体病理学・病理診断学分野 教授 日本病理学会 理事長 深山正久氏より、本講習会の目的、これまでの取り組み等についての説明がなされた。

次いで、AMEDバイオバンク事業部 部長 加藤治氏より、AMEDの方針と今後の方向性、ゲノム医療実現プロジェクトがまさに動き出したこと、今後の将来展望、ゲノムタスクフォースなどについての説明がなされた。

講義では、初めに「ゲノム医療実現に向けたオーダーメイド医療の実現化プログラムの取り組みと病理組織バンキングの構築」として、東京大学医科学研究所 所長 村上善則氏より、バイオバンクジャパン

(BBJ)での血清・DNAバンキングの現状、新たに開始した組織バンキングの構築と基盤整備について説明がなされた。また、実際にBBJにバンキングした試料を活用して、どのような研究がなされ、どのようなことが解明されたかという説明が、具体的な日本からの研究論文の紹介を通してなされた。

次に「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、日本病理学会 ゲノム病理診断検討委員会 委員長 九州大学大学院医学研究院 形態機能病理学 教授 小田義直氏より、「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演が行われ、「質の高いゲノム研究」のための検体採取に関して、採取すべき部位や検体の種類（臓器）による留意点が説明された。「質の高いゲノム研究」とあるが、実際の手術検体からの「ゲノム用検体採取法」であり、「質の高いゲノム診療用検体」を採取することとほぼ同義である旨の説明もあった。

最後に、日本病理学会のAMED委託事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、日本病理学会 ゲノム病理組織取扱い規約委員会 委員長、慶應義塾大学医学部

病理学教室 教授 国立がん研究センター研究所 分子病理分野 分野長 金井弥栄氏よりご講演いただいた。講習のテキストは基本的には製本された「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」であるが、講習会での質問に対する追加実験結果や新たな課題に対する実証実験での知見が加えられブラッシュアップされた内容であった。

いずれの講演もアンケートの評価は高いものであった。ただし、何点か要望も寄せられており、次年度の講習の検討事項にしたいと考える。

<2月12日（実習）>

朝 9 時 30 分開始で 16 時までのプログラムで、東京大学医学部附属病院 病理部・ゲノム病理標準化センターにて実習が行われた。

実習の内容は、「(1)病理検体のマクロ所見の読み方と試料採取部位の特定」「(2)パラフィン切片からの DNA 抽出」「(3)凍結試料からの RNA 抽出」であり、参加者 20 名をスモールグループに分け、ローテーションする体制で上記の実習すべてに参加していただいた。

(1)では実際のドラフトチャンバー内で、ホルマリン固定後のヒトの実際の手術検体を手にしてもらい、種々の臓器で検体採取を病変のどの部位から行うのかを学んでいただいた。(2)では、パラフィン切片から DNA を抽出する作業を実際に行ってもらい、(3)では教本に従って RNA を各参加者で抽出してもらい、その RIN 値を測定するという実習を体験してもらった。(1)は、ゲノム医療が臨床で行われる際の、非常に重要なファーストステップであり、採取場所を間違える（壊死部を採取してしまうなど）と、その後の患者のゲノム治療の道が閉ざされることにもなり、参加者もそのつもりで真剣に取り組んでいたのが印象的であった。

なお、アンケートにもあるように、現在の広さや講師の体制では、1 回の講習会の実習では 20 名が上限であり、今回も数十名お断りしなくてはならない結果となり、今後の課題と考えられた。

今回の講習会参加者には、日本病理学会 病理専門医更新 領域別講習単位 座学・実習各 2 単位が、また日本臨床検査技師会の生涯教育単位および認定病理検査技師の資格更新単位が付与された。なお、外科専門医の領域別講習の単位としても外科学会と調整中であったが、専門医機構の諸事情により、調整が大幅に遅れている。

講習会の終了にあたり，聴講生には修了証書が配布された．また聴講生 1 人 1 人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧と e-ラーニングが受講できるように専用の ID，パスワードを配布し受講を促した．

なおアンケート結果の詳細に関しては，添付資料を参照されたい．

(文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅)